



図 1 前立腺針生検の方法

4. 前立腺針生検の安全性と危険性（リスク）について

前立腺針生検は、外来で日常的に行われている検査で、安全性は確認されておりますが、以下のような合併症が起きることがあります。

（1）血尿

前立腺が膀胱の出口にある関係上、血尿となることがあります。通常は2～3日で自然によくなりますが、血尿が強く排尿が困難になるような場合は、点滴治療や膀胱洗浄などの処置を必要とします。

（2）発熱

直腸から針を刺す検査法のため、大腸菌などの細菌が体内に入り、感染症をおこす危険性があります。その予防のために、検査の前後には抗生剤を点滴注射し、検査後も数日間は抗生剤を飲んでいただきます。発熱の程度によっては点滴治療を継続します。

（3）血便・血精液症